

第259回研究科委員会・第371回教員会議 議事要録

日 時：令和6年6月12日（水） 研究科委員会 12：50～13：25 / 教員会議 13：30～15：25

場 所：後援募金記念棟 会議室 1-3

議 題

◆研究科委員会◆

[審議事項]

1. 教務委員会

(1) 令和6年度9月修了修士論文審査委員について

資料1に基づき、対象となる1名の審査委員について提案があった。主査は教授、副査は特任教授及び教授である。質問等はなく、提案通り承認された。

2. 入試委員会

(1) 令和7年度大学院（博士前期課程・博士後期課程）学生募集要項（英語版）について

資料2-1、2-2に基づき、学生募集要項の英語版が提案された。これらは、前回研究科委員会で提案・了承された募集要項（日本語）の英語版である。質問等はなく、提案通り承認された。なお、資料を確認し、修正事項等がある場合は、来週までに入試課の担当主査に連絡して欲しいとの付言があった。

[報告事項]

1. 研究科長

(1) 令和6年度研究推進計画の取り組みについて

資料3-1、3-2に基づき、各専攻の研究担当責任者である評議員（理工学専攻）、教授（環境放射能学専攻）から説明があった。質問はなかったが、最後に教授から、目標値と実績値が両専攻で同一となっており、環境放射能研究所のメンバーからは部局ごとに設定できるようにして欲しいとの要望が出されているので、今後そのように提案していきたいとの発言があった。

2. 教務委員会

(1) 第114回全学教務協議会について

(報告事項)

・令和7年度シラバス作成・点検について

資料4に基づき説明があった。シラバス作成はだいぶ先だが、令和7年度からの新カリキュラムで新しい科目も設置されることもあり、今回から学類教務委員会もシラバスについて関与することになるので、ご承知おき願いたいとの説明があった。

3. 学生生活委員会

(1) 令和5年度学生生活実態調査について

資料5に基づき説明があった。特に、16ページの間34～36番（性別について）の質問に対して現状を認識しておいてほしいとの説明があった。

4. 財務・施設委員会

(1) 令和6年度 院生学会発表旅費の支援について

資料6に基づき説明があった。今年度からの変更点が2か所ある。①申請において日当、参加費を除外する点、②海外学会は円安等を考慮して10万円から20万円に増額した点、である。①についてはきびたき会で2万円/年の補助制度があるので、そちらもあわせて利用していただきたいとの付言があった。教授から、地域課題とはどういうものか、また、学類の発表経費ときびたき会からの補助は両方使用可能

なのか、という質問が出された。委員長から、前者については申請書に記載の内容で判断している、後者については大丈夫のようだ、との回答があった。別な教授から、院生の発表件数については外部評価に使うので、タイトルを見て地域課題とわかるようにしてほしいとの発言があった。A准教授から、後期課程学生の日本学術振興会特別研究員に申請した場合の追加助成の条件は新規か、との質問があり、高安委員長から従来からある条件だとの回答があった。B准教授から、論文掲載支援について、前期課程の学生でも大丈夫かとの質問があり、委員長から大丈夫であるとの回答があった。B准教授から、オープンアクセス誌への掲載料は非常に高額であることが多いが、全額補助してもらえるのかとの質問が出された。委員長から、現時点ではそのように設定しているとの回答があった。最後に、研究科長から地域課題については意識していただきたいとの発言があった。

3. その他

(1) 研究科長から、7月5日12:30から後援募金記念棟会議室にて大学院説明会を開催するので、進学希望の指導学生にぜひ出席するようアナウンスしてほしいとの依頼があった。

(2) 評議員から、科研費セミナーを次回の教員会議(7月10日、13:30~)に開催する。詳細はのちほどメールで連絡するとのアナウンスがあった。

◆教員会議◆

[審議事項]

1. 教務委員会

(1) 令和6年度非常勤講師計画について

資料7に基づき、項目番号54~58番について講師が決定したとの説明があった。継続の講師については教務委員会で確認したので新規について審議いただきたいとの依頼があった。特に質問はなく、提案通り承認された。

(2) 令和6年度TA等経費予算について

資料8に基づき、教務委員会で配分額を決定したとの説明があった。申請額に対して配分額は半分程度となった。予算超過するなど当初配分額に変更が生じそうな場合には、あらかじめ教務委員会に相談してほしいとの付言があった。質問はなく、提案通り承認された。追加情報として、今年度から月ごとに科目担当者に使用状況を送付するので確認いただきたいとのアナウンスがあった。

[報告事項]

1. 学類長

(1) 令和6年6月期における期末手当及び勤勉手当の加算該当者の推薦について

プロジェクター投影により該当者が提示された。6月5日に人事委員会を開催し、申し合わせに従って決定したことが報告された。推薦者の内訳は5級6名、4級3名である。

(2) 令和6年6月期勤勉手当に係る「勤務成績が特に優秀な職員」及び「勤務成績が優秀な職員」(教育職員)の推薦について

プロジェクター投影により該当者が提示された。これについても、6月5日の人事委員会にて決定した。特に優秀な職員3名、優秀な職員12名を推薦した。

2. 入試委員会

(1) 「入学者選抜に係る資料等の公開に関する申し合わせ」の改正について

資料9に基づき説明があった。総合型選抜、学校推薦型、及び一般後期が変更となったため、総合型では「テーマと概要」を公開すること、学校推薦型では小論文が削除された。また、一般後期は面接となったため削除された。これらの変更は令和7年度入試より適用される。追加情報として、今月実施される高専入試の志願者は1名となったこと、入試問題作成に関する主任者会議に主任は参加してほしいとのアナ

ウンスがあった。

(1) 入試広報委員会

(2) メッセージプロジェクトについて

資料10に基づき説明があった。グループアドバイザー及び指導教員においては、それぞれ担当する学生に対してアナウンスしていただきたいとの要請があった。

(3) 入試広報の取り組みについて

資料11に基づき説明があった。理工学類において公式Xを開設し、理工学類をアピールする場を提供したいので協力願いたい。運用は入試広報委員会と理工学類支援室、さらに准教授の協力をいただきながら進めるとのことである。

3. 教務委員会

(1) 研究室配属の今後の予定について

最初に資料12-2に基づき説明があった。9コースについて配属予定者と定員を勘案し、定員調整を行ったことが報告された。次に、資料12-3は教員ごとの定員一覧であるとの説明があった。

(2) 令和5年度TA等経費決算について

資料13に基づき説明があった。科目ごとに黒字・赤字があるが、全体としては約55万円の黒字決算となったことが報告された。

(3) 第114回全学教務協議会について

(報告事項)

・令和7年度シラバス作成・点検について

資料4に基づき説明があった。次回のシラバス作成は新カリキュラム対応が必要となり、新旧カリキュラム両方の記載となる。担当者に早めにお願ひするので協力いただきたいとの付言があった。

・BYOD対応 学生PCに求めるスペック等の更新依頼について

資料14-1のとおり、これまでと異なり全学共通のスペックとしたいとの報告があった。分野長には事前にチェックいただき、教務委員会としては提案内容で了承したいと考えているとの付言があった。

・令和5年度後期成績分布の公開について

資料15のとおり、6月の1か月間に成績分布が公開されることがアナウンスされた。

・卒業時アンケート集計結果

資料16に基づき説明があり、理工学類の学生は他学類生に比べて評価が厳しい傾向があるとの付言があった。

・卒業時DP評価について

資料17のとおり、理工学類は教員評価の入力割合が他学類に比べて非常に高いので、是非これを継続していただきたいとの要請があった。

4. 学生生活委員会

(1) 令和5年度学生生活実態調査について

資料5について説明があり、内容は研究科委員会での報告と同一である。

5. 財務・施設委員会

(1) 令和5年度決算について

資料18に基づいて説明があった。最終的に1,200万円超の赤字決算となった。理由は以下のとおりである。①停電による装置の故障対応のため、②学長裁量経費の支出が多かったため、③教員研究費の赤字については、外部資金の間接経費が教員の給料に回ることになったため、④エアコンの故障が22件もあったため、⑤そもそも配分額が前年比3割減だったため、である。

6. 奨学寄附金の受入について(学類長)

6月分として、奨学寄附金：2件、共同研究：3件、受託研究：3件の受入れが報告された。

[その他]

1. 第75回国立大学工学部長会議総会について(学類長)

資料19-1について説明があり、8ページ以降の協議事項・要望事項・承合事項について、これらは本学類にも関連する事項を多く含むため確認願いたいとの紹介があった。全体として、特に生成AIの対応、志願者の維持・増加策、さらに女子学生確保等についての議論が印象的であった。

2. 学生表彰式の日程について

資料はなく、7月8日(月)昼からM3教室で開催するので教員も出席願いたいとの報告があった。准教授から、対象者についての情報はないのかとの質問が出された。委員長から、これまでの慣例に従って事前に情報を公開することはしないが、次年度に向けて検討したいとの回答があった。

3. 大学案内の記載内容について大学案内の記載について説明があった。次年度の教員一覧の記載内容について、学類執行部から入試広報委員会に依頼した。今後の人事計画に変更の可能性があるが、現時点では特任教員について記載していない。また、担当学類が変わる予定の教員(2名)は名前を記載している。以上を反映した一覧となっていることが報告された。

◆教育研究評議会◆

○第416回(5月17日)報告

【議題】

(1)【審議】学士課程改革に関する役員会案及び今後の方針について

この評議会は、前回の評議会で継続審議となった案件について臨時で開催されたものである。資料1-1のとおり、役員会案(5項目)の再提案があった。資料1-2は学類からの意見、資料1-3は学類からの意見に対する回答文書である。また、資料1-4は改革概要についての修正版ポンチ絵(令和9年度及び13年度の2段階)である。審議を踏まえて最終的に了承されたことが報告された。

○第417回(5月20日-22日書面開催)報告

【議題】

(1)【審議】大学院関連「運営計画」への対応について

資料1のとおり、大学院に関連する3項目について変更し、それを様式5-1-1に反映することについて審議し了承されたことが報告された。資料1-2の関連資料についてもあわせて報告された。

○第418回(5月28日開催)報告

【議題】

(1)【審議】学内諸規則等の制定について

資料1-1のとおり、教員会議規則、研究科委員会規則の改正について審議された。資料1-2のとおり、「代議員会等」の改正について新旧対応表をもとに説明があった。これらについて審議し了承されたことが報告された。

(2) 【報告】令和6年度科研費採択状況について

資料2に基づき説明があり、新規採択率が25.2%と前年比1.8ポイント増となった。また、大型費目の採択があり金額が増加した。資料2-1は詳細な資料である。時間があるとき確認してほしいとの依頼があった。

(3) 【報告】「令和7年度入学者選抜方法等の見直しについて」及び「令和8年度入学者選抜方法の見直しに関する予告について」の改訂版の公表について

資料3に基づき説明があった。一部修正が必要な箇所があったため、4月に改めて修正版を公表した。資料3-1が公表内容である。

(4) 【報告】学士課程改革に伴う特別職「特命理事」新設について

資料4のとおり、特命理事を現体制に追加して新設することが報告された。資料4-1のとおり、学士課程改革において業務遂行のため時限的に任命する。資料4-2は新旧対照表である。資料4-3は規則の制定イメージ資料である。

(5) 【報告】学士課程改革について

資料5-1は役員会案の修正版であり（赤字部分）、一部修正されたことが報告された。資料5-2は検討体制のイメージ図の紹介である。資料5-3はスケジュール案である。資料5-4は項目ごとの詳細な工程表である。特に、自然科学分野の検討項目についての紹介があった。資料5-5は教育学部の設置準備室案、資料5-6は人文社会系新学部設置準備室案、資料5-7は理工学群・農学群の共同検討チーム案である。資料5-8はガバナンスについての検討体制案である。その後、質疑応答があった。

A教授から、理工学類は他の人文系学類とのすり合わせ、例えば教員免許などはないのか、との質問があった。学類長から、教員養成については理工学類ももちろん関わっている、との回答があった。A教授から、工程表は別々に分かれているが、今後、水面下で動きがあると考えているのか、との質問があった。学類長から、相談があるのかわからないが、こちらから動く必要があるかもしれないとの回答があった。A教授から、特命理事の位置づけは何か。どこにフォーカスしているのか、との質問があった。学類長から、評議会では特に質問はでなかったが、ガバナンスや人事に関わると思う、との回答があった。A教授から、特命理事ができた理由はあるのか、との質問があった。学類長からは理由はわからないとの回答があった。B教授から、理工学群と農学群の連携についての検討は早い気がするがどう考えるかとの質問があった。学類長から、連携については統合ではないという前提で、機器の共用や、共同研究についての検討であり、現時点で必要ない気もするが、全学的に検討体制を作ることになっている、との回答があった。C教授から、文書上は統合を目指すことになっているが、学部への名称変更は申請すること等、当初案から修正されていない気がするとの質問があった。学類長から、確かに含みをもたせているが、統合するという方向性は不変であると理解している、資料5-4で自然科学系の学部名称変更の届出がスケジュールに組み込まれている、との回答があった。C教授から、スケジュールが変わっていないが、文系学類と同じスケジュールで進むのか、との質問があった。学類長から、名称変更と合同検討チームの設置は別であり、要項案の検討事項には入っているが、令和9年度から統合について検討するとは思っていない、との回答があった。C教授から、統合することを意図していないと説明されているが、役員会案の項目5がそのまま残っている以上、文章からはそうは読めないのではないか、との質問があった。学類長から、理工学類も食農学類も統合について反対しているのに、当初の役員会案から変更していない。令和7年度から理工学類の定員が200名になり、さらに令和9年度からは大学院も定員が増えるので、そこをいかに負荷なく進めるかが重要であり、教育と研究において過度な負荷がかからないように進めることが重要である。文部科学省とのやりとりの中で、劇的に変更している姿を見せるために使っているかもしれない。交渉の中で状況が変化していくことが考えられるので、まだ確たることが言えない状況ではある、との回答があった。B教授から、連携ワーキングとなっているが、本文での目的が統合することとなっている。この齟齬をどう解釈するのか、との質問が出された。学類長から、統合を考えている場合ではないというのが執行部の意見であり、それより先に食農との連携を考えるのが現実的

であろうとの回答があった。B教授から、もし統合していい未来がみえるのなら意味があるが、慎重さは必要であるとの意見が出された。学類長から、理工学類も食農学類も統合には反対しているのが、そこが出发点である、との回答があった。D准教授から、教育学部の設置申請が通らないというのがあるのではないか、教育学部というのはアンケート結果と合っていない、リスクがあるのではないか、との質問があった。学類長から、よくわからないが、フルセットではなくても教育学部（計画養成）に戻ることは可能と学長がいつている。計画養成となると教職実績が見られるだろうし、不確定要素はある。多くの大学は財政面が苦しく、教育学部にはコストがかかる、との回答があった。D准教授から、教員になる学生の質が担保できるのか、最近心配になるエピソードが多いと感じる、との質問があった。学類長から、それは教員養成に限らず、他の学類生についても同様だと思う。また、教員という職業に対するイメージが悪い、人間発達文化学類の志願倍率が低いので、大丈夫かと思う、との質問があった。教育学部への回帰については、いろいろな場で意見は言ってきたが、功を奏していない。だから何もしないということではなく、その中でよりよい方向に進むように追求していきたい、との回答があった。

(6) その他情報共有等
なし

◆運営会議◆

○第199回（6月11日開催）報告

【議題】

(1) 【報告】令和6年度大学院関連「運営計画」収容定員充足率に関する進捗確認について
資料1-1は令和4年度からの一覧表であり、大学院改革から令和5年度までの収容定員充足率が地域デザイン科学研究科は低いままである。令和6年度も地域デザイン科学研究科が収容定員を充足していない。一方、理工学研究科と食農科学研究科は充足していることが報告された。資料1-2のとおり、運営計画において学生確保の取組などが記載されているが、収容定員を満たすための大学院改革なのに、それを達成していない。また、令和6年度入学者の学際性重視型履修者は、地域デザイン科学研究科で1名、理工学研究科は0名であった。学際性重視型と専門性重視型両方の必修科目（イノベーション・リテラシー）に対する学生の評価が低いと発言した。最後に、令和9年度からの定員増は学類定員160名がベースとなることもあるので、高度情報専門人材支援に係わるどころだけでなく、研究科全体の支援が大切であるとの発言があった。

(2) その他情報共有等
なし

以上